

鳥凧教室

今にも空に飛び立ちそう

本物の鳥のように勇壮に空を飛ばせたいと「鳥凧教室」が2月23日、豊住公民館で行われました。鳥凧は十分な揚力を得るための大きな翼を持たせた立体的な凧です。飛べない鳥のはずなのに、いきいきと生気が漂う作品たち。参加者の中村和實さんは「初めての作品なので、完成したときの感動はひとしおでした。翼の表面をもみ込んでざらざら感を出したんです」と笑顔で話していました。



気持ちよく空を飛んでいるかのような鳥凧



オヤジギャグが連発し、笑い声の絶えない教室



丁寧な作業を意識しながら

シルバー人材センター技能講習会

職人技の習得を目指して

就業に役立つ技術の習得を目的として2月4日～8日、18日～22日の2回にわたり、障子やふすま紙の張り替え作業の講習会がシルバー人材センターで行われました。作業中は、紙が曲がったりずれたりしないよう参加者同士で注意し合いながら手順を確認。時折、談笑を交わすなど和気あいあいとした雰囲気の中で技術の向上に励んでいました。

成田市青少年綱引き大会

1,370人が力の限りに

「青少年綱引き大会」が2月17日、市体育館で開催され、市内小学校区から90チーム・1,370人の小学生が出場しました。今大会から、チーム12人の合計体重を500キログラムまでとする「軽量級」と「無差別級」の2階級制を採用。大きな声援を受けた選手たちは、チーム一丸となり力いっぱい綱を引き合いました。

主な成績は次の通りです。

<軽量級>

- 優勝 三里塚B
- 準優勝 公津の杜WIND
- 第3位 玉造サンダー

<無差別級>

- 優勝 玉造ジュピター
- 準優勝 三里塚A
- 第3位 向台サルビー



軽量級65チームの頂点に立った三里塚Bチーム

地区に受け継がれる 伝統行事

学問の神として知られる菅原道真公を祭り、天明年間(1781年～1788年)から続いているといわれる芝地区のオビシヤが2月24日、芝共同利用施設で行われました。当日は、ご神体の受け渡しの後、地元の芸能保存会が神楽を奉納。子どもたちを囲んでの踊りが披露されるなど、和やかな雰囲気の中で一年の無病息災・家内安全が祈願されました。



地元芸能保存会による獅子舞の奉納



順番にもちつき体験



初めてペーゴマに挑戦

もっとお互いが 知り合おう

新・旧住民が「もっとお互いを知り合う」ことで、住み良い地区にしようと開催されている「本城ふれあいフェスティバル」。11回目の今回は、2月24日に地区内の老若男女約400人が本城小学校体育館に集い、羽根つき、ペーゴマ、紙芝居といった昔の遊びなどを通して、世代を超えた交流を図りました。また、この日のために用意された、もち米1俵(60キログラム)は、お雑煮、あんこ、からみもちなどとしてすべて無料で提供され、見る見るうちに参加者の胃袋におさまっていきました。

民族舞踊を通じて 他国を知る

他国の文化にふれることで世界の人々と仲良くなしてほしいとの願いの下、2月12日、中郷小学校で「国際交流フェスティバル」が行われました。チェコ国立オンドラーシュ民族音楽舞踊団の皆さんが日本公演で全国を飛び回っている合間をぬって、成田ユネスコ協会の呼び掛けで特別に来校。ユーモアのあるダンスや軽快なリズムの演奏を披露し、子どもたちと一緒にダンスをするなど交流を深めました。6年生の三橋拓実さんは「かつこよく舞い、きれいな歌声で踊るダンサーさんたちはすごいと思いました」と声を弾ませていました。



子どもたちと輪になって踊る舞踊団の皆さん